

令和元年6月24日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370949

研究課題名(和文) 開発・環境運動・宗教実践の交叉と動態に関する人類学的研究

研究課題名(英文) An anthropological study of dynamic intersections among developmental projects, environmental movements, and religious practices.

研究代表者

石井 美保 (Ishii, Miho)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40432059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、インド・カルナータカ州マンガール郡における大規模な開発事業の進展とその影響について、ブータ祭祀と呼ばれる神霊祭祀に焦点を当てて検討し、開発と環境、宗教実践の関係を明らかにすることである。本研究では、開発に伴う環境破壊と住民の強制的移住、反開発運動の展開、工場内での宗教祭祀の復興について、土地や自然と密接に結びついたブータ祭祀を基軸として検討してきた。この研究を通して、反開発運動における宗教実践の重要な役割が明らかになった。また、工業プラントでの調査を通して、自然と人間の関係を回復する試みのひとつとして、プラント内部で神霊祭祀が新たに創造されていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトの調査を通して、南インドにおいて自然と人々の関係性を媒介する神霊祭祀の重要性が明らかになった。また、大規模開発の進展という状況にあって、神霊祭祀が単に衰退するのではなく、新たな形で復活を遂げているという状況が明らかになった。この研究成果は平成28年度に『環世界の人類学--南インドにおける野生・近代・神霊祭祀』として京都大学学術出版会から刊行された。また英語版の著書の執筆も完成しており、現在出版社によるレビュー中である。

研究成果の概要(英文)：This project investigated the influence of development projects in Dakshina Kannada, Karnataka State of India. Since the 1980s, these projects have affected the lives of villagers. I examined how villagers have coped with deforestation and the fragmentation of village communities. How do spirit, or buuta, rituals interact with villagers' responses to development projects? How are the outsiders who implement development projects related to the land and deities in the area? To address these questions, I investigated the following three topics: buuta worship in anti-development activism, conflicts arising from development projects, and the case of buuta worship inside an industrial plant. I clarified the ambivalent effects of the buutas, who both strongly support anti-development activism and bind people to their land. Furthermore, I examined new manifestations of buuta worship within plants in the special economic zone.

研究分野：文化人類学

キーワード：開発 環境運動 宗教実践 インド カルナータカ州 神霊祭祀 自然

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者は2008年以降、南インド・カルナータカ州マンガロール郡バジュペ地域において、プータ祭祀と呼ばれる土着の神霊祭祀に関する調査研究を行ってきた。これまでの調査から、地域の土地や自然に根ざしたプータ祭祀は、村落社会の土地保有と生産物の分配、母系制、家系ノカースト間の分業と密接に関わっており、その儀礼は村落における家系間のヒエラルキーの再構築を可能としていることが明らかになった。また、憑依儀礼におけるプータ(神霊)と信者の交渉と、託宣を通して発揮される神霊のエイジェンシーが、人々の日常的な社会関係に影響を及ぼしていることがわかった(石井 2010)。また申請者は、神霊と人間のパースペクティブの交換や、人とモノの協働性という点に焦点を当て、神霊と人々の交渉について現象学的視座を採り入れつつ検討してきた(e.g. 石井 2013; Ishii 2012)。これまでの調査の過程で、近年、調査地において大規模な開発事業が進展し、このことが地域社会に重大な変化をもたらしていることが明らかになってきた。申請者の調査地では、1980年代から官民複合型の大企業による開発事業が進められてきた。マンガロール経済特区の建設を中心とする開発事業によって、広大な土地が企業に接収されるとともに、多くの人々が他地域への移住を余儀なくされている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、南インドにおける大規模な開発事業の進展とその影響について、プータ祭祀と呼ばれる神霊祭祀に焦点を当てて検討し、開発と環境運動、宗教実践の交叉とその動態を明らかにすることである。本研究では、開発事業に伴う大規模な環境破壊と住民の強制移住、反開発運動の展開、工場内での宗教祭祀の勃興という今日的な 이슈について、地域の土地や自然と密接に結びついたプータ祭祀を基軸として検討する。その際、本研究は、環境運動論、リスク・コミュニケーション研究、社会運動と身体のエイジェンシー論をはじめとする多角的な視座を批判的に用いつつ、開発と環境運動、そして宗教実践をめぐる議論に新たな視座を拓くことを目指す。

3. 研究の方法

本研究は、現地調査、文献研究、論文執筆を三つの柱とする。平成26年度は開発の影響を被る村落住民、ならびに反開発運動を主導する社会運動家と環境団体の活動について調査を行う。平成27年度は工業プラントでの参与観察を実施し、科学者と技術者らへのインタビューを行うとともに、プラント内でのプータ祭祀の実態を調査する。平成28年度は開発事業をめぐる住民同士の抗争について、複数の村落で事例を収集する。また、住民の抵抗運動に対する企業からの暴力的弾圧について調査を行う。平成29年度には調査結果をまとめ、国際シンポジウムを開催するとともに、学術図書を執筆・出版する。すべての年度において、現地調査と並行して文献研究と論文執筆を行う。

4. 研究成果

本研究では、開発事業に伴う大規模な環境破壊と住民の強制的移住、反開発運動の展開、工場内での宗教祭祀の復興について、地域の土地や自然と密接に結びついたプータ祭祀を基軸として検討してきた。本研究は、現地調査、文献研究、論文・著書の執筆を三つの柱としている。平成26年度はプータ祭祀との関連を中心に、開発の影響を被っている村落住民、ならびに反開発運動を主導する社会運動家や宗教指導者の活動について調査を行った。平成27年度は経済特区内にある企業や工業プラントでの参与観察を実施し、開発を主導する企業の幹部、技術者、その他の雇用者へのインタビューを行うとともに、プラント内でのプータ祭祀について調査を行った。平成28年度は開発事業をめぐる住民同士のコンフリクトや交渉のあり方について複数の村落で事例を収集するとともに、これまでの研究成果をまとめ、学術図書を執筆・出版した。平成29年度は追加調査を実施するとともに、研究成果の英語での執筆を開始した。最終年度である平成30年度は、マンガロールでの追加調査に加えてウッタカナダ県における比較研究を実施した。また、本研究の成果をまとめた著書(英語版)の執筆を完成させ、現段階では出版社によるレビュー中である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7件)

1. Ishii, Miho 2017 New Ontologies and Persistent Questions. *Social Anthropology* 25: 19-20.
2. Ishii, Miho 2017 Caring for Divine Infrastructures: Nature and Spirits in a Special Economic Zone in India. *Ethnos: Journal of Anthropology* 82(4):690-710.
DOI: 10.1080/00141844.2015.1107609
3. Ishii, Miho 2016 Attuning to the webs of en: Ontography, Japanese spirit worlds, and the "tact" of Minakata Kumagusu. *Hau: Journal of Ethnographic Theory* 6 (2): 149-172. (Casper

Bruun Jensen, Philip Swift と共著) DOI: <http://dx.doi.org/10.14318/hau6.2.012>

4. Ishii, Miho 2015 The Ecology of Transaction: Dividual Persons, Spirits, and Machinery in a Special Economic Zone in South India. *NatureCulture* 3:7-34.
5. Ishii, Miho 2015 Wild Sacredness and the Poiesis of Transactional Networks: Relational Divinity and Spirit Possession in the Būta Ritual of South India. *Asian Ethnology* 74(1): 87-109.
6. Ishii, Miho 2014 「パッションの共同体へ : 南インドにおける開発、身体、神霊祭祀」『コンタクト・ゾーン』 6: 82-100.
7. Ishii, Miho 2014 Traces of reflexive imagination: Matriliney, modern law, and spirit worship in South India, *Asian Anthropology* 13(2): 106-123.

〔学会発表〕(計 6 件)

1. Ishii, Miho 13 December 2018 ‘Being possessed and re-possessing perspectives: Care, practice, and the path of transformation of the self’ Embodying Modern "Scientific" Medicine and "Religious/Spiritual" Healing: A Comparative Perspective on Non-Voluntary Spirit Possession and Exorcism. The Fondazione Giorgio Cini, Venice, Italy.
2. Ishii, Miho 2018 ‘Anthropologies of Science and Technologies in Japan’ Yoko Taguchi, Miki Namba, Grant Jun Otsuki, Gergely Mohacsi, Shuhei Kimura, and Miho Ishii. STS Across Borders Digital Exhibit, curated by Aalok Khandekar and Kim Fortun. Society for Social Studies of Science.
3. Ishii, Miho 20 July 2017 ‘The guru, spirits, and right-wing party: politics of the anti-development movement in Karnataka’ ICAS (International Convention of Asia Scholars). The Chiang Mai International Exhibition and Convention Centre (CMECC).
4. Ishii, Miho 2015 July 8 ‘Multiple Voices, Different Values: A "Successful" Anti-Development Movement in South India’ Social Movements in South Asia: The Interface between Global Values and Grassroots Power. ICAS9 (The 9th International Convention of Asia Scholars at Adelaide)
5. Ishii, Miho 2014 Nov 1. ‘Spirits Meet Machines: Human-Nonhuman Entanglement in būta Worship in South India’ *Social Interaction: Global Meets Local*. 11th Japanese-German Frontiers of Science Symposium 2014 at Bremen, Germany (October 30-November 2, 2014)
6. Ishii, Miho 2014 Aug 2. ‘Spiritual infrastructure/infrastructural spirits: intimacy, danger, and distance in human-nonhuman relations in South India.’ *Intimacies of Infrastructure*. European Association of Social Anthropologists at Tallinn, Estonia (31st July-3rd August)

〔図書〕(計 11 件)

1. 石井美保 2018 「精霊信仰」インド文化事典編集委員会編 『インド文化事典』丸善、pp. 412-413.
2. 石井美保 2018 「神霊と社会運動」インド文化事典編集委員会編 『インド文化事典』丸善、pp. 314-315.
3. 石井美保 2018 「フェティッシュ/フェティシズム」奥野克巳・石倉敏明編 『レキシコン現代人類学』以文社、pp. 120-123.

4. 石井美保 2017 『環世界の人類学—南インドにおける野生・近代・神霊祭祀』京都大学学術出版会、560頁。
5. 石井美保 2016 「響きあう家族のかたち：南インドのフィールド・ライフ」椎野若菜・的場澄人編 『女も男もフィールドへ (FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ 12)』古今書院、pp. 165-175。
6. 石井美保 2016 「インドにおける血液、贈与、共同体—有徴化と匿名化のはざままで」坂野徹・竹沢泰子編 『人種神話を解体する 2 科学と社会の知』、東京大学出版会、pp. 139-155。
7. 石井美保 2015 「開発と神霊 土地接收とブータ祭祀をめぐるミクロ・ポリティクス」石坂晋哉編 『インドの社会運動と民主主義 変革を求める人びと』昭和堂、pp. 268-296。
8. 石井美保 2015 「補論 3 工場の中の神霊」田辺明生・杉原薫・脇村孝平編 『現代インド 多様性社会の挑戦』東京大学出版会、pp. 361-364。
9. 石井美保 2014 'The chiasm of machines and spirits: būta worship, mega-industry, and embodied environment in South India', *Ecologies of Care: Innovations through Technologies, Collectives and the Senses* (Readings in Multicultural Innovation Volume 4). Gergely Mohácsi (ed.). Osaka: Osaka University, pp. 239-256.
10. 石井美保 2014 「イギリス帝国とインド人兵士 『マーシャル・レイス』 にとっての第一次世界大戦」山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編 『世界戦争 (現代の起点 第一次世界大戦 第1巻)』、岩波書店、pp. 57-77。
11. 石井美保 2014 「呪物の幻惑と眩惑」田中雅一編 『越境するモノ (フェティシズム研究 2)』、京都大学学術出版会、pp. 41-68。

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.mihoishiianthropology.com/>

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/ishii.htm>

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/jjL3wJ>

<https://researchmap.jp/read0138817/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。